
力 それは手に入れるもの

柊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

力 それは手に入れるもの

【Nコード】

N3853BA

【作者名】

柊

【あらすじ】

仲間に聞けば

「化け物、怪物、人外」

といわれ。

本人に聞けば

「俺？ただのしがない冒険者だよ」

と答えられる人たちの織りなす異世界転生物語。

0話 過去

これは関係ないとも言えるし、これから起こることについて大きな意味のある事ともいえる。

過去の話だ。

正直これが俺今も進む道はこの出来事があつた歩んでいるんだな、
と思う。

とりあえずこんな話はつまらないしちゃっちゃと言ってしまうおう。

そうだな、いつだっけ……

俺は少し浮かれていたのかもしれない。

年は26歳。

仕事にもちゃんとつけていて生活が安定してたしな。

もう一人暮らししててちよつと顔でも出してみようかなと思い、
ちよつとした手土産を持って行ったんだ。

そしてあることが起こった。

俺はこの一生でこの出来事が起こった後ほど困惑し後悔したことはないだろう。

まあ実際この後死んだしな。（笑）

起こったことはきわめて簡潔だった。

殺人事件さ。

ちよつと強盗が押し入ってる途中でね。

母さんが包丁を振りあげられて刺される直前だった。

母さんは俺のことを見つけてすぐに逃げろと言った。

言葉に従って逃げたさ、ただひたすらに。

もちろん途中で警察に電話するのは忘れなかったよ。

俺はきつと強盗は俺が逃げ出したことですぐに警察が来ると思っ
てすぐ逃げるだろうと楽観視していた。

この時俺はそれが絶対に正解だと信じてやまなかった。
確かに間違いではなかったと思う。

ただ正解じゃなかった。
それだけだ。

結果から言うとな俺の考察はちよつとだがあたっていた。

俺の母さんを直接手に掛けることはなかった。

“直接”はね。

家、燃やされちゃったんだよね。

俺は後悔した、これ以上ないほどに。

激怒した。

強盗にではない。

俺のあまりのふがいなさに。

なんで俺がこんな目に、なぜ？どうして？

俺にもつと勇気があればずつと女手一つで育ててくれた母さんにわ
ずかなりとも恩返しできたのに。

俺にもっと“勇気”があれば。

“力”があれば。

今度こそ大切なものは手放さずに済むのに。

ショックで憔悴して周りのことなんてなに一つ見ちゃいなかった。きつと何回か壁にぶつかったりしていただろう。

その時人生の最後で思ったことは。

「もし生まれ変わることができたならば、そして神がいるならば、俺に何かを守る力をください」

その日に起きた事故は2件。

一つは強盗事件。

もう一つは26歳ほどの男性が車でひかれたという。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3853ba/>

力 それは手に入れるもの

2012年1月10日00時52分発行